

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170200473
法人名	介護サービス九州株式会社
事業所名	つくしんぼのグループホーム唐津
所在地	唐津市和多田大土井2-35 (電話) 0955-75-6115

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年6月2日

## 【情報提供票より】(平成21年3月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤	人, 常勤換算	8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	300 円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 済世会病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の一角に、民家を利用して作られたグループホームで、二間続きの座敷や広い縁側など自宅に居るような落ち着いた雰囲気がある。外には大きな庭石が並び居間でテレビを見ながら、外を眺めることが出来る。室内は、玄関の段差・敷居の段差や柱など障害物もあるが、生活の中で移動の能力を低下させない環境と考えている。自分の家にいるような普通の暮らしが継続出来るように支援しており、その人らしく、一人ひとりの笑顔を大切にしている職員の優しい関わりが感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果は、各職員それぞれに検討し改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員で話し合いながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では地域の方や家族からの意見も聞かれ、双方向の話し合いがなされている。会議で出された意見や要望は、改善に向け取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に報告するとともに、必要時は電話で連絡をしている。報告の漏れ等がないよう、電話で対応する職員を決めている。「お気づき箱」を設置して、家族等からの意見を聞きだす機会を作っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	回覧板で地域の行事を確認したり、老人会長の方から声かけしてもらい、清掃活動等に参加している。夏には、地域の花火大会が行われ、バーベキューをしながら地域の方と観覧している。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での生活を継続していくという理念を、事業所独自の理念として作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念を唱和し、確認して仕事に向かうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板で地域の行事を確認したり、老人会長の方から声かけしてもらい、清掃活動等に参加している。夏には、地域の花火大会が行われ、バーベキューをしながら地域の方と観覧している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価は各職員がそれぞれに取り組んでいたが、今回の自己評価は、職員で話し合い、確認しながら作成している。	○	評価で見出された課題については、改善計画シートを作成するなど、評価結果をサービスの質の向上に効果的に活かせるよう、改善に向けての具体策の検討が、着実に実践につながるような取り組みも期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の方や家族からの意見も聞かれ、双方向の話し合いができています。会議で出された改善事項等の意見についても改善に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	FAXやメールで市からの情報を受け取っている。運営面での疑問点などは連絡し確認している。また、機会があれば窓口に出向き、顔見知りの関係を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、家族の面会時に報告するとともに、必要時は電話で連絡をしている。報告の漏れ等がないよう、利用者の情報は職員間で共有し、電話で対応する職員を決めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に、気づき等がないか聞くよう努めている。	○	家族等が意見や苦情・不満を言いにくいことに配慮し、家族等が意見・苦情を表せる機会作りの一層の工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係が大切なことは理解しているが、職員の離職等にあつては利用者の不安感が感じられるために、利用者へは職員の離職は説明していない。家族へは、面会時に説明し、玄関にはスタッフの顔写真を貼っている。	○	職員の交代に際しては、交代前後の利用者への説明や対応の仕方、引き継ぎ期間の取り方など利用者へのダメージを防ぐ一層の配慮を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1回、本社の社内研修に全員参加している。社外研修も、職員が交代で出席し、研修受講後は研修報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の6事業所で自主的に交流の機会を作り、管理者・職員が参加し情報交換や勉強の場として活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談があれば、訪問したり来てもらったりしながら、馴染みの関係を作り、体験利用等で少しずつ馴染んでもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごすことで、言葉ではうまく伝わらないことを感じるようにしている。学び、支えあう関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時に、本人や家族から話を聞き、本人の視点に立った生活を支える情報として活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ケアカンファレンスを行い、計画の話し合いをしている。病院受診時に主治医からの意見をもらい、家族へは電話で意見を確認し、毎週訪問される訪問看護師からも情報をもらい、計画作成に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等で状態が変化したときには、その都度話し合いを行い、計画を見直している。毎日チェック表を作り、計画通り実施できているかモニタリングもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期通院の受診介助や定期的に外泊される方の送迎の援助等も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの関係性を継続するために、以前からのかかりつけ医に継続的に診てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化についてのマニュアルを作成しているが、今までホームの利用者で終末期についての対応はなかった。今後、必要性が出てきたら、その都度話し合いを行う予定としている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、毎日の唱和でプライバシーの保護について触れている。個人の電話連絡等についても、直接電話を取り次ぐのではなく、主介護者へ確認し電話を取り次ぐようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は7時としているが、夜間の睡眠状態や本人のリズムで8時の朝食をとる方もいる。生活リズムが崩れない範囲で、本人のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け・片付けなど、職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は習慣化し定期的に入ることができる。一人ひとり入浴の希望の時間があり、夕方入りたい方は夕方入ることができるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が得意な方には家事をする場を提供し、お客さんにお茶を出したり、役場の手続きと一緒にいたりして、一人ひとりにあった楽しみや役割が持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースを決めて、天気のよい日は散歩している。一人ひとりの歩行能力を考えて、コースを決めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、昼間は開放している。昼間は居間で過ごされる方が多く、見守りをしているが、危険防止の為に居室の一部には施錠されている。	○	利用者の安全を確保しながら日中鍵をかけないで支援していくための一層の工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得ての訓練と、毎月の避難訓練を実施している。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し地域住民の協力を得た訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ccの水分摂取を目安として、一人ひとりの水分量を把握している。食欲がない場合などには、他のもので栄養補給が出来るように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく日当たりの良い居間で、一人ひとりが好きな場所で過ごせるように、椅子やソファを置くなどして工夫している。トイレは、タイル張りのために、すべらない様に改装の予定となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、家族の写真や仏壇などが持ち込まれるなど、家族と相談しながら、その人らしく過ごせるような居室づくりを行っている。		